

家庭教育応援企業研修会

日 時：令和2年1月22日（水）13：00～14：00
協力企業：東芝プレシジョン株式会社
演 題：「山から学ぶ～自己肯定感をはぐくむために～」
講 師：くろがね小屋管理人 佐藤 敏夫氏
 福島市教育委員会生涯学習課
 生涯学習指導員 佐久間敏彦氏
主 催：福島県教育委員会

各学校では、授業参観日などを利用して、PTA対象の研修を実施していますが、仕事の都合で職場に戻らなければいけなかったり、父親の参加率が低かったりと、学校での研修会に参加しにくい場合も多いようです。そこで企業内での研修会を実施し、より多くの保護者の方々に家庭教育の啓発を図っていくことを目指し、本研修を設定しました。

実践にあたっては、山の魅力や様々な体験から家庭教育に共通する考え方を見だし、参加者の主体的な学びを引き出すために対談形式を取り入れ、より良い家庭教育の啓発と風通しのよい職場環境づくりの支援を行うこととしました。



【講演の内容】

(1) 山の魅力・人との出会い・親子

【佐藤敏夫氏講話】

- 個人的には、山登りの魅力は「登ること」と「大自然に向き合うこと」であるが、人それぞれの目的や意識によって山に求めるものは変わってくる。
- 親子の登山者で、子どもが山にゴミが落ちているのを見て「お父さん、あれはだめなんだよね。」といいながらゴミを拾っている姿
→子どものしつけの基本的な部分がうまくいっている家庭の姿
- 悪天候でも無理をして登山しようとする親子もいる。
→子どもに合った計画が必要である。
- 自然はいろいろな意味での勉強の場。自然界は「分かること」と「分からないこと」があるが、すべて含めて自然に向き合う場を親子で作ってほしい。

(2) 職場の環境作り・子育てと仕事の両立

【東芝プレシジョン社員（佐藤拓也氏 遠藤めぐみ氏 氏家一教氏）を交えての対談】

① 父親の立場から

佐久間：佐藤（祐）さん、父親としてどのくらい子育てに協力しているのかお話しください。

佐藤（祐）：子どもは娘が一人います。どうしても「仕事優先」で主な子育ては母親に任せてしまっています。帰宅後の短時間でできるだけ子どもと関わるようにしています。

佐久間：子育てに関して、奥さんと同じ方向を向いていますか？

佐藤（祐）：私が怒ったら妻がフォローに回るようにして、あまり子どもを追い詰めないようにしようと話し合っています。

佐久間：理想的ですね。

② 母親の立場から

佐久間：では次に、遠藤さんに母親として仕事と子育ての両立をどのようにやりくりしているのかを語っていただきたいと思います。

遠藤：5年生の男の子、年中の女の子の2人の子どもがいます。旦那もお風呂に入れてくれるなど、協力的です。また、会社の理解があり、短時間勤務を取得して出勤時刻を遅くしています。

佐久間：理想的な職場環境ですね。氏家さん、こちらの会社における職場環境づくりについてはいかがでしょうか。

氏家：子育て支援の制度的は十分に設計しています。女性職員はうまく利用していただいています。しかし、男性職員の利用については課題となっています。

佐久間：遠藤さん、子育ての中で心配されていることはありますか？

遠藤：なかなかやる気を出さなくて困っています。

佐久間：そんなとき、どんなことを言ってあげていますか。

遠藤：「やりなさい」と言うんですがやらないので、やる気が出るのを待っています。

③ 佐藤敏夫氏より

佐久間：それぞれ、父親、母親の立場からお話しいただきました。佐藤（敏）さんいかがでしたか？

佐藤（敏）：子どもの時に自分のやりたいことをまず見つけて、できるだけそれを伸ばすというスタンスで接してもらった方がいいと思います。また、私は複式学級で育ったので横のつながりだけでなく縦のつながりもありました。それが地域の中でとても役に立っています。学校内や地域の中で人間関係をどう築いていくかが大切だと思います。今はそのあたりが希薄になっている感じがします。

(3) 子どもの自己肯定感をはぐくむために

【佐久間敏彦氏講話1】

- 自己肯定感とは、人間の生き方の土台である。
→自分のことが好き（自己受容）、自分を大切にしている（自己尊重）
- 自己肯定感が身についていると、集団生活にうまくなじめる。社会への適応力の基礎となる。



- 自己肯定感が低いと、小学校では学級の中で孤立し、中学校では不登校になり、高校になると引きこもりになるケースが見られる。
- 自己肯定感が低い子どもの家庭における親の関わりの特徴。
→「虐待」「ネグレクト」
→「過保護」… 親の価値観を子どもにすべて押しつけ、過度に子どもをコントロールする。

○ 自己肯定感をはぐくむために

① 「子どもの話を真剣に聞く」

→ どんな些細な話にも、「うざい」などの乱暴な言葉にも、しっかり向き合う。すると信頼関係ができてくる。

② 「子どもの変化にいち早く気づく」

→ 食欲がなくなる、表情が暗くなる、言葉数が減るなどの変化に気づく。

③ 「自己決定権を与える」

→ 「君はどうしたいと思うの?」「何をしたいの?」と決定権を与える。

④ 「父性と母性のバランス」

→ 父親、母親のどちらかが厳しく言ったら、片方はフォローする。

⑤ 「良さを見つけ伝え励ます」(プラスのストローク)

→ 大事にされていると感じる言葉。「称賛」「共感」

例 子どもが75点取ってきたとき

×「なんで75点しかとれないの!」

○「よく75点も取ったなあ。あと5点取ったら80点だったぞ。」

【社員を交えての対談】

佐久間：佐藤(祐)さん遠藤さん、ここまでの話を聞いて、ご自宅ではどうですか?

佐藤(祐)：どうしても大人目線で見えてしまい、自己決定に関して見守る余裕、考えさせる余裕がないと思いました。

遠藤：ご飯の時は、なるべく子どもの話を聞くようにしています。

佐久間：台所で仕事をしているときに自分の脇に椅子を置き、子どもに音読させて時々手を握ってあげるとい方がいました。短い時間の中での有効な子育てといえますね。会場内の方で感想などはありませんか?

会場：小学3年生の子がいます。何かにつけて「めんどくさい」というのですが、どんな言葉かけをされるといいですか。

佐久間：佐藤(敏)さん、佐藤(祐)さん、遠藤さん、それぞれいかがでしょう。

佐藤(敏)：自分なら感情的にならないで、「そう。」と言って流すと思います。

佐藤(祐)：口が達者になってきて、そういうことはよくあります。家庭全体の雰囲気が悪くなり、ギクシャクしてしまうことがあります。

遠藤：「そういうことは言わないの!」と強く言ってしまいます。

佐久間：基本的に心配する必要はありません。荒っぽい言葉は成長の一過程で、脳が順調に成長している証拠です。本心とは違うので、軽く受け流して抱きしめてやるといいですね。



【佐久間敏彦氏講話2】

○ 一家団欒を描いた絵～線のみで、色もつけずに描かれた家族の絵

→ 自己肯定感が低い子で、ネグレクトを受けている。家族は機能していない。この子にとっては家には色がなく、食べ物などがどれか分からない。誰がお母さん、お父さんかも分からない。

○ 一家団欒を描いた絵～家族みんなで寿司を食べている。画面いっぱい一人一人が生き生きと描かれている。

→ 自己肯定感が有り余るほど育っている子の絵。明るい赤をふんだんに使って色づけし、表情に迫力が感じられる。家族が家族として機能していて、一人一人に役割があり、家族全体に自己肯定感が高まっている。

- 子育ては山登り
 - ・ 小学生…親はリュックの中身（生きる基本）をそろえ、健康な体に育てる。
 - ・ 小学校高学年から中学生（思春期・反抗期）…親はすぐ後ろから見守る。
 - ・ 高校生から大学生…子どもは自力で崖を登り始める（社会に出る準備）。親は遠くから見つめる。
 - ・ 社会人…自力でつらいことがあっても乗り越えていく。親は何もできない。
 - 子育ての最終到達目標…子どもが経済的に自立すること
- (4) 佐藤敏夫氏からのメッセージ



- 問題があったら抱え込まないで、行政や先生に相談するとよい。
- 会社では、企業として従業員の方がどのような問題を抱えているかを聞いてどんな支援ができるか制度化していくことが大切。それを社会にもフィードバックしてほしい。
- 教育は、家庭と学校だけでなく地域企業も含めて支援して、子育てしやすい環境を作っていくことは素晴らしい。
- 山の日などのイベントの時はぜひ親子で登山に来てほしい。

【研修後の懇談より】

研修後、企業代表者、講師を交えて懇談を行いました。

【東芝プレジジョン】

- 非常に有意義でした。今後、2回目、3回目と「思春期の子育て」のようなテーマで行っていければと思います。
- 今回は1時間と短かったので、次回は2時間くらいで休憩を入れながら実施してもいいです。
- 従業員の子育てについては普段話題にしないので、よい機会でした。
- 会社で家庭教育について学べて、家に持ち帰られるのはいいです。
- 企業通信を活用し、福島県内で応援企業として賛同して下さっている企業にいい効果を出していただきたいと思います。家庭教育応援企業という取組は、今の時代にとても合っています。

【講師】

- 自己肯定感を育てることは大人の世界にもあって、上司が部下にどう接するかというノウハウとも共通点があります。信頼関係がとても大切です。そのような意味からもこの会社は「人材を育成する」ということに軸足があって、本当に素晴らしいです。
- 学校や、学習センターでの研修には足を運びにくいところがあります。この研修会は行政が企業に出向く（出前講座）という新しい形です。
- ケーススタディから学ぶような研修もよいですね。別の人々の価値観を知ることできます。



- 世の中の価値観が多様化しているので、学校では対応に四苦八苦しています。それに対応していかなくてはならない時代になってきています。
- これからは学校と地域が双方向に関わっていくことが大切になります。企業のいろいろなノウハウを学校の授業に生かしたり、子どもたちが地域に貢献したりといった関わりが推進されていきます。

【県教育庁】

- 本日の資料に講師の佐藤さんの示唆のあるお話がぎっしり詰まっています。ぜひ「自己肯定感」をはぐくむヒントにしてほしいです。
- 家庭で本来持つべき力を企業にバックアップしていただければ家庭もうまく回り、学校の負担も減ります。地域の宝である子どもを地域で見守り、新しい地域力で子どもを育てていきたいです。

懇談の中で以上のようなやりとりが交わされました。企業側の社内研修への意識の高さが十分に伝わりました。また講師のお二人も企業のニーズに寄り添った内容を提供してくださりました。

今後さらに企業研修会を充実させるための様々な示唆を得る機会となりました。

【事後アンケートより（抜粋）】

- 自己肯定感というお話がすごく心に残りました。「親ができること」をもう一度考えて行動してみようと思いました。「家族」の絵の違いが衝撃的でした。
- 子育てしていく中で自分のやり方が正しいのか間違ったりしていないか、なかなか確認する場はなく、親や友達と話してなんとなく自分で納得していくところがありました。このような場で自分の子育てを振り返り、確認できるということに安心感が生まれました。
- 自己肯定感の大切さ、必要性がわかりやすく説明が聞けて大変参考になりました。
- 会社でこのような話が聞けて大変よかったです。
- 貴重なお話ありがとうございます。今日の研修を実践に生かしたいと思います。
- 子どもとの接し方についていろいろと貴重な意見を聞くことができよかったですと思いました。
- 親が子どもにどこまで関与してよいのか、話を聞いてよくわかりました。これからも子どもと全力で向き合い、スキンシップを図っていきたいと思います。ありがとうございました!!山登りを通しての子どもとの接し方など参考になりました。
- 称賛と共感を心におき子育てしていきたいです。
- また2回、3回と研修を企画していただきたいです。とても有意義な内容でした。
- 成長期に発する言葉遣いについて聞けてよかったです。もう少し思春期の子どもについての扱いを聞きたかったなと思います。
- 子どもの自己肯定感を育むために、親の関わりとして子どものやったことなどをほめるなどはよいと聞いていましたが、過保護にすることも問題であるということが勉強になりました。
- 自然の大切さ、自己肯定感の大切さを知りました。
- 子育てと山登りの関係についてもっと聞きたかったです。いつか何かの機会にでも…。
- 親にできることで、なかなかできないことがあるので、この研修をきっかけに進んでやっていければと思いました。
- 改めて気づかされたこともあり、実践していきたいと思います。

当研修会の開催につきましては東芝プレシジョン様に研修会の内容、従業員の皆様の勤務の調整、事前アンケート等様々な面でご理解とご協力をいただきました。誠にありがとうございます。

今後とも、本県の子供達達の健全な育成のため、お力添えをいただけますよう、よろしくお願いいたします。